

| 授業科目名 | 開講年度 | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|-------|--------|--------|----|-----|--------|-----|
| 英語V | 平成24年度 | 松尾 江津子 | 5 | 通年 | 学修単位 2 | 必 |

[授業のねらい]

英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳで得た英語の知識技能を活用して,理工系分野の英文を読み進めながら,より高度な英語のリーディング能力を養うことを目指す。また,広い視野と,的確に情報を受信・発信する基礎力を養うことをねらいとする

[授業の内容]

すべての内容は,学習・教育目標(A)<視野><意欲>及び(C)<英語>,およびJABEE 基準1(1)(a),(f)の項目に相当する。

前期

第1週 Introduction 授業の概要について

Unit 1 Out of Ice

第2週 Unit 1 Out of Ice

第3週 Unit 2 Extrasolar Planet

第4週 Unit 2 Extrasolar Planet

第5週 Unit 3 For the Benefit of the Patient

第6週 Unit 3 For the Benefit of the Patient

第7週 Unit 4 The Tragedy of the Commons

第8週 Unit 4 The Tragedy of the Commons

第9週 中間試験

第10週 中間試験の解説

Unit 5 Telemedicine

第11週 Unit 5 Telemedicine

第12週 Unit 6 making Music

第13週 Unit 6 making Music

第14週 Unit 7 Yoga

第15週 Unit 7 Yoga

後期

第1週 前期末試験の解説

Unit 8 Forest Therapy

第2週 Unit 8 Forest Therapy

第3週 Unit 9 The Uncanny Valley

第4週 Unit 9 The Uncanny Valley

第5週 Unit 10 Renewable Energy

第6週 Unit 10 Renewable Energy

第7週 Unit 11 Electric Vehicles

第8週 Unit 11 Electric Vehicles

第9週 中間試験

第10週 中間試験の解説

Unit 12 The Rose

第11週 Unit 12 The Rose

第12週 Unit 13 Biomimicry

第13週 Unit 13 Biomimicry

第14週 Unit 14 Neglected Tropical Diseases

第15週 Unit 14 Neglected Tropical Diseases

| 授業科目名 | 開講年度 | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|----------|--------|--------|----|-----|-------|-----|
| 英語Ⅴ（つづき） | 平成24年度 | 松尾 江津子 | 5 | 通年 | 学修単位2 | 必 |

| | |
|--|--|
| <p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各回において取り上げられる英文の内容を理解できる。 2. 各回の英文の流れをつかみ、要点を正確に理解できる。 3. 読んだ英文の内容に関する設問に答えることができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 各回の英文に出てくる単語・熟語の意味および慣用表現が理解できる。 5. 各回の英文に含まれる語法、英語表現を応用して基本的な英文を作ることができる。 |
| <p>[この授業の達成目標]</p> <p>英文の内容を理解し、その概要を把握でき、使用されている語彙や慣用表現を理解し、それらのうち基本的なものをを用いることができる。</p> | <p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～5の確認を中間試験、期末試験、小テスト、課題により評価する。1～5に関する重みはほぼ同じである。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p> |
| <p>[注意事項]</p> <p>毎回の授業分の予習をしたうえで、積極的に授業に参加すること。授業には必ず英和辞典（電子辞書でも可）を用意すること。</p> <p>本教科は専攻科の技術英語Ⅰに強く関連する教科である。</p> | |
| <p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>4年次までに学習した英単語、熟語、英文法の知識。本教科は英語Ⅳの学習が基礎となる教科である。</p> | |
| <p>[レポート等]</p> <p>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す。</p> | |
| <p>教科書：<i>Science in Focus</i> 世界を見渡す科学の眼（成美堂）</p> <p>理工系学生のための必修英単語3300（成美堂）</p> <p>参考書：高校総合英語 Harvest（桐原書店）</p> | |
| <p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を70%、小テストや課題の評価を30%として、それぞれの学期毎に評価し、これらの平均値を最終評価とする。但し、学年末試験を除く3回の試験について60点に達していない学生については再試験を行う場合があり、再試験の成績が該当する期間の成績を上回った場合には、60点を上限としてそれぞれの期間の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p> | |

| 授業科目名 | 科目コード | 担当教官名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|--------|----------|-------------|----|-----|--------|-----|
| 実用英語 I | 平成 24 年度 | Mike Lawson | 5 | 前期 | 学修単位 1 | 選 |

〔授業の目標〕

Students will work in small groups helping each other with textbook exercises emphasizing basic techniques of English-language presentation script creation including, 1) subject suitability, 2) techniques for organizing ideas into an expanded logical framework and finally, 3) narrowing the framework into a fully developed English-language oral presentation script.

〔授業の内容〕

The following content conforms to the learning and educational goals: (A) <Perspective> [JABEE Standard 1(1)(a)], and (C) <English> [JABEE Standard 1(1)f].

Week:

- 1: Introduce class requirements
- 2: Unit 1-A new club member: Presentation exercises from the text.
- 3: Unit 1- A new club member: Presentation exercises from the text.
- 4: Unit 1- A new club member: Presentation exercises from the text.
- 5: Unit 2- A favorite place: Presentation exercises from the text.
- 6: Unit 2- A favorite place: Presentation exercises from the text.
- 7: Review for Midterm exam
- 8: Midterm Exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.

Week:

- 09: Discuss Midterm exam results
- 10: Unit 2-A favorite place: Presentation exercises from the text.
- 11: Unit 2-A favorite place: Presentation exercises from the text.
- 12: Unit 3-A prized possession: Presentation exercises from the text.
- 13: Unit 3-A prized possession: Presentation exercises from the text.
- 14: Unit 3-A prized possession: Presentation exercises from the text.
- 15: Review for Final exam
- 16: Final exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.

〔到達目標〕 (この授業で習得すべき知識・能力)

1. Using teamwork while working in small-groups, students will gain a practical understanding of English-language outline creation techniques by the weekly, in-class creation of topic-to-final outlines.

2. Students will gain practical understanding through classroom and textbook work. Textbook concepts will include: “A new club member”, “A favorite place”, and “A prized possession”.

〔この授業の達成目標〕

The objectives of this course are:

1. To provide students with practical experience in English-language oral presentation creation strategies, and;
2. To emphasize and improve group cooperation in meeting weekly objectives.

The ability of students to apply techniques of English-language outline creation will be evaluated through the use of two exams (a midterm and exam and a final exam). Students will have attained the goals provided that they have earned 60% of the total points possible for this course.

〔注意事項〕

1. Please visit my website (<http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/genl/Lawson/>) for information related to this class.
 2. Please visit ITO Akira’s Internet website “English-Muscle” at <http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/engcom/> for fun English-learning activities.
 3. You may contact me at the following address: lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp.
- 本教科は専攻科で学習する英語総合 1 の基礎となる教科である。

〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕

An understanding of basic English syntax and grammar. 本教科は英語IVの学習が基礎となる教科である。

〔レポート等〕 The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study time outside of the classroom.

教科書： 1. **Text:** Gershon, Steven. *Present Yourself 1 Experiences*. Cambridge University Press 2008

参考書： 2. Material as distributed in class.

〔単位修得要件〕 Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.

〔学業成績の評価方法〕 Method of Evaluation: 50% Midterm Exam, 50% Final Exam. **Students may have their final scores reduced for poor behavior during classes.**

| 授業科目名 | 開講年度 | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|-------|-----------|-------|----|-----|--------|-----|
| 社会学 I | 平成 2 4 年度 | 竹野富之 | 5 | 前期 | 学修単位 1 | 選 |

[授業のねらい]
 グローバル化に適応・対応できるよう異文化理解の重要性を認識させ、違いを受け入れる姿勢を養う。そのために様々な分野から社会人類学の背景や歴史の流れを説明し日本とも比較しながら考察する。

| [授業の内容] | |
|---|---|
| <p>全体の週において、教育目標 (A) (視野) (意欲) と、JABEE I (1) (a) 項目に該当する内容を講義する。</p> <p>第 1 週 社会人類学とは何か I ヨーロッパ植民地獲得競争と人類学</p> <p>第 2 週 社会人類学とは何か 2 人類学者の研究姿勢について</p> <p>第 3 週 社会人類学とは何か 3 オリエンタリズム批判と人類学</p> <p>第 4 週 社会人類学の研究方法について フィールドワークとは何か</p> <p>第 5 週 フィールドワークに実践方法 1 調査の前に準備すること</p> <p>第 6 週 フィールドワークに実践方法 2 質問票作りとインタビュー</p> <p>第 7 週 マレーシアのイスラーム 1 マレーシアの紹介</p> <p>第 8 週 中間試験</p> | <p>第 9 週 マレーシアのイスラーム 2 イスラームの基本的な教養について</p> <p>第 1 0 週 マレーシアのイスラーム 3 イスラーム共同体ウンマとは何か</p> <p>1 1 週 マレーシアのイスラーム 4 マレーシアの女性とイスラーム</p> <p>第 1 2 週 マレーシアのイスラーム 5 マレーシアの姦通罪と女性</p> <p>第 1 3 週 日本人とイスラーム 1 少数派としてのイスラーム教徒</p> <p>第 1 4 週 日本人とイスラーム 1 イスラーム教徒として日本に暮らすこと</p> <p>第 1 5 週 まとめ 日本の国際化と社会人類学の重要性について考える</p> |

| [この授業で習得する「知識・能力」] | |
|---|--|
| <p>1. 現在の社会人類学の元となる背景を理解している。</p> <p>2. それぞれの文化のかたち・特色を知っている。</p> | <p>3. 文化研究の方法論を知っている。</p> <p>4. 各の文化の源である宗教の影響を理解している。</p> |

| [この授業の達成目標] | [達成目標の評価方法と基準] |
|--|---|
| <p>言語の重要性を認識し、欧米諸国の背景や歴史を踏まえ、それぞれの文化の具体的な形を理解している。</p> | <p>上記の[知識・能力] 1～4 を網羅した問題を各定期試験とレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各[知識・能力]の重みの目安は 1, 2, 4 を 3 0 %, 3 を 1 0 % とする。合計点 6 0 % の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p> |

[注意事項] 授業中適宜に課題を与え、レポートを提出してもらう。
 本教科は専攻科で学習する国際関係論、経営学の基礎となる教科である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]
 本教科は法学 I、II や経済学 I、II の学習が基礎となる教科である。

[自己学習]
 授業で保証する学習時間と予習・復習 (中間試験と定期試験のための学習も含む) 及び課題・レポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が 4 5 時間に相当する学習内容である。

教科書：なし
 参考書：適宜紹介

[学業成績の評価方法および評価基準]
 前期中間、前期末の 2 回の試験の平均点を 70%, 課題 (レポート) 30% として評価する。

[単位修得要件]
 与えられたレポートを提出し、学業成績で 6 0 点以上を取得すること。

| 授業科目名 | 開講年度 | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|-------|----------|---------------|----|-----|--------|-----|
| 中国語 I | 平成 24 年度 | 川西 笑華 孫 婉芬 | 5 | 前期 | 学修単位 1 | 選 |

[授業のねらい] 近年多くの企業が中国に進出し、英語に次ぐ外国語として、中国語の重要性も増してきている。正確な発音・基本的な文法を習得することにより、中国語による初歩的なコミュニケーションができることを目指す。

[授業の内容] 全ての週の内容は、学習・教育目標 (A) <視野> および JABEE 基準 1(1) (a) の項目に相当する。

第1週 発音① 発音記号 四声と三声の変調
 第2週 発音② 母音 (単母音・複母音)
 第3週 発音③ 子音 (有気音・無気音)
 第4週 発音④ 子音 (そり舌音・鼻音と n, ng, 及び r 化音)
 第5週 発音のまとめ 挨拶のまとめ
 第6週 第5課 名前の言い方と尋ね方 人称代名詞
 第7週 第5課 自己紹介、会話及び練習
 第8週 前期中間試験

第9週 第6課 「是」構文 反復疑問文
 第10週 第6課 「是」を使って会話練習
 第11週 第7課 中国語の語順
 第12週 第7課 会話練習
 第13週 第8課 助動詞「想」と所有を表す「有」
 第14週 第8課 応用会話 練習
 第15週 前期のまとめ

[この授業で習得する「知識・能力」]

- 1 四声の発音ができる。
- 2 四声、ピンインを聞き分けることができる。
- 3 簡単なあいさつの会話ができる。
- 4 自分の名前、専攻を中国語で言える。

- 5 基本的な文型 (動詞述語文、「是」と所有の「有」の文) が理解でき、運用できる。
- 6 助動詞「想」及び連動文が理解でき、運用できる。
- 7 疑問詞疑問文、反復疑問文が理解でき、運用できる。

[この授業の達成目標]

中国語の発音表記の仕組みを理解しつつ、1つ1つの音をきちんと発音することができ、また聞き取ることができる。
 基本的な語順を理解し、簡単な文を作ることができる。

[達成目標の評価方法と評価基準]

[この授業で習得する「知識・能力」] 1～7の習得の度合を中間試験、期末試験、口答試験により評価する。各項目の重みは同じである。試験問題のレベルは、100点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。

[注意事項] 教科書付属のCDを繰り返し聞き、発音練習をする事。

本教科は後に学習する中国語Ⅱの基礎となる教科である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

[自己学習]

授業で保証する学習時間と、予習・復習 (中間試験、定期試験 口答試験) に必要な標準的な学習時間の総計が、45 時間に相当する学習内容である。

教科書：しゃべっていいとも中国語 (朝日出版社)

参考書：授業時、随時紹介する。

[学業成績の評価方法および評価基準] 中間・期末の試験結果を80%、口答試験の結果を20%として、これらの平均値を最終評価とする。再試験は原則として行わない。

[単位修得要件] 与えられた課題、提出物を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。

| 授業科目名 | 科目コード | 担当教官名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|-------|--------|-------------|----|-----|--------|-----|
| 実用英語Ⅱ | 平成24年度 | Mike Lawson | 5 | 後期 | 学修単位 1 | 選 |

【授業の目標】

The main focus for students will be a continuation of the first semester coursework with emphasis on English-language presentation script creation techniques, with a minor emphasis on speaking techniques, such as practical and useful words, phrases and expressions, as well as effective nonverbal techniques, such as eye-contact, gestures etc., through textbook exercises and weekly in-class English-language oral presentations.

【授業の内容】

The following content conforms to the learning and educational goals: (A) <Perspective> [JABEE Standard 1(1)(a)], and (C) <English> [JABEE Standard 1(1)f].

Week:

- 1: Introduce class requirements
- 2: Unit 4-A memorable experience: Presentation exercises from the text.
- 3: Unit 4- A memorable experience: Presentation exercises from the text.
- 4: Unit 4- A memorable experience: Presentation exercises from the text.
- 5: Unit 5-Show me how: Presentation exercises from the text.
- 6: Unit 5-Show me how: Presentation exercises from the text.
- 7: Review for Midterm exam
- 8: Midterm Exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus.

Week:

- 09: Discuss Midterm exam results
- 10: Unit 5-Show me how: Presentation exercises from the text.
- 11: Unit 6-Movie magic: Presentation exercises from the text.
- 12: Unit 6-Movie magic: Presentation exercises from the text.
- 13: Unit 6-Movie magic: Presentation exercises from the text.
- 14: Unit 6-Movie magic: Presentation exercises from the text.
- 15: Review for Final exam
- 16: Final exam: This exam tests objective “1”and “2”listed in the syllabus

【到達目標】（この授業で習得すべき知識・能力）

1. Continuing to work in teams, students will sharpen their ability to use techniques of English-language presentation creation to advance from topics to final outlines producing logical speech frameworks with a minor emphasis on speaking skills.

2. Students will improve upon their English-language oral presentation script creation techniques through classroom work and textbook work. Textbook concepts will include: “A memorable experience”, “Show me how”, and “Movie magic”. Students work on their speaking skill through presentations.

【この授業の達成目標】

The objectives of this course are:

1. To help students refine their ability to select an interesting presentation topic,
2. To improve students’ skill in refined to brainstorming techniques, and;
3. To improve upon students’ ability to create logical presentation outlines.

The advancement of students’ skill in topic selection, brainstorming and outline creation will be evaluated through the use of two exams (a midterm and exam and a final exam). Students will have attained the goals provided that they have earned 60% of the total points possible for this course.

【注意事項】

1. Please visit my website (<http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/genl/Lawson/>) for information related to this class.
 2. Please visit ITO Akira’s Internet website “English-Muscle” at <http://www-intra.srv.cc.suzuka-ct.ac.jp/engcom/> for fun English-learning activities.
 3. You may contact me at the following address: lawson@genl.suzuka-ct.ac.jp.
- 本教科は専攻科で学習する総合英語Ⅰの基礎となる教科である。

【あらかじめ要求される基礎知識の範囲】

An understanding of basic English syntax and grammar.

本教科は英語Ⅳの学習が基礎となる教科である。

【レポート等】 The total time necessary for students to acquire an understanding of the course is 45 hours, including classroom time and study time outside of the classroom.

教科書： 1. **Text:** Gershon, Steven. *Present Yourself 1 Experiences*. Cambridge University Press 2008

参考書： 2. Material as distributed in class.

【単位修得要件】 Students must obtain at least 60% of the total possible points in order to receive 1 credit.

【学業成績の評価方法】 **Method of Evaluation:** 50% Midterm Exam, 50% Final Exam. **Students may have their final scores reduced for poor behavior during classes.**

| 授業科目名 | 開講年度 | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|-------|----------|-------|----|-----|--------|------|
| 社会学Ⅱ | 平成 24 年度 | 前島訓子 | 5 | 後期 | 学修単位 1 | 選択必修 |

[授業のねらい] 「産業」の発展は、私達の生活や生活を取り巻く社会にどのような影響を及ぼしてきたのだろうか。この授業では、「産業」の発展をひとつの軸としながら、消費者である私達や私達が生きている社会がどのような変化を経験し、その中でどのような問題が顕在化し、またそれらの問題がどのように取り上げられ、議論がなされているのかを、いくつかのトピックを通して取り上げていく。

[授業の内容]

| | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 第1週 産業化と社会 1—「社会」とは何か | 第9週 産業と都市 1—産業の盛衰と都市問題 |
| 第2週 産業化と社会 2—組織と時間 | 第10週 産業と都市 2—「都市」へのアプローチ |
| 第3週 産業化と社会 3—フォーマル組織とインフォーマル組織 | 第11週 産業と地域社会 1—犯罪と逸脱 |
| 第4週 産業と労働 1—生産体制の変化と労働環境 | 第12週 産業と地域社会 2—監視社会 |
| 第5週 産業と労働 2—ポストフォーディズムと労働 | 第13週 産業と環境 1—産業化と環境問題 |
| 第6週 産業と消費 1—生産と消費 | 第14週 産業と環境 2—技術と環境 |
| 第7週 産業と消費 2—消費と現代社会 | 第15週 産業と環境 3—リスク |
| 第8週 中間試験 | |

[この授業で習得する「知識・能力」]

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業化と産業化が私達の社会に及ぼした影響を、時間や組織の観点から理解できる。 2. 産業化による人々の労働や労働環境の変化を理解できる。 3. 情報が私達の生活に果たしている役割とそのメリット、デメリットが理解できる。 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 産業化と都市化の関係から私たちの生活と都市の成長の関係を捉え、さらにそこに生み出された社会問題の発生メカニズムを理解できる。 5. 産業構造の変化にともない、地域社会に生じている問題と問題をめぐる動きについて理解できる。 6. 産業化が環境に及ぼした影響とそれに対する社会の対応が理解できる。 |
|--|---|

[この授業の達成目標]

「産業化」をめぐる生じた労働や労働を取り巻く社会の変化、情報化といった新たな時代が直面している諸問題、そしてそれらの現象がもたらした都市や地域、環境への影響について、様々な角度から捉え、考えることができること。

[達成目標の評価方法と基準]

「知識・能力」1～6を網羅した問題を中間試験と定期試験で出題して目標の達成度を評価する。また、試験以外に、授業内において課す小レポート課題等を通して、授業への積極的な参加と講義内容の理解、習得状況を評価する。

[注意事項] 授業時に数回の小レポートを課す。

本教科は専攻科で学習する国際関係論、経営学の基礎となる教科である。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 普段何気なく生活していることや、また自分たちの周りに生じている様々な問題や出来事に関心を向け、疑問をもっておく。本教科は法学Ⅰ、Ⅱや経済学Ⅰ、Ⅱの学習が基礎となる教科である。

[自己学習] 授業内での講義を手がかりとしながら、普段の生活や自身の周囲で生じている出来事を、単なる出来事として済ませてしまわず、さまざまな角度から考えることが求められる。

教科書： 特に指定しない。授業時に適宜、資料を配布する。

[学業成績の評価方法および評価基準]

中間試験と定期試験(期末試験)の結果を80%、授業時に課す小レポートを20%として評価する。

[単位修得要件]

中間試験と定期試験で60点以上取得すること。

| 授業科目名 | 開講年度 | 担当教員名 | 学年 | 開講期 | 単位数 | 必・選 |
|-------|--------|---------------|----|-----|--------|-----|
| 中国語Ⅱ | 平成24年度 | 川西 笑華 孫 婉芬 | 5 | 後期 | 学修単位 1 | 選 |

[授業のねらい] 中国語Ⅰに引き続き、基本的文型と文法事項を習得し、簡単な日常会話ができることを目指す。あわせて中国の文化、社会事情を紹介することにより中国語に対する理解をより深める。

[授業の内容] 全ての週の内容は、学習・教育目標 (A) <視野> および JABEE 基準 1(1) (a) の項目に相当する。

第1週 第9課 人／物の所在を表す「在」と前置詞の「以」「往」
 第2週 第9課 道を尋ねる会話練習
 第3週 第10課 形容詞が述語になる文
 第4週 第10課 値段の尋ね方の練習
 第5週 第11課 年月日、曜日の言い方及び練習
 第6週 第11課 年齢の尋ね方及び会話練習
 第7週 第12課 動詞の重ね方及び料理の注文の仕方
 第8週 後期中間試験

第9週 第13課 時刻の言い方及び会話練習
 第10週 第13課 状態の変化を表す「了」の使い方
 第11週 第14課 時間の長さの言い方及び会話練習
 第12週 第14課 動作の完了を表す「了」及び練習
 第13週 第15課 前置詞「給」、助動詞「可以」、「能」の使った会話練習
 第14週 動作の進行を表す表現、会話練習
 第15週 助動詞「会」の使い方、会話練習

[この授業で習得する「知識・能力」]

- 1 進行、完了などのアスペクト表現が理解でき、運用できる。
- 2 助動詞「可以」、「能」「会」が理解でき、運用できる。
- 3 前置詞「給」、「以」、「往」が理解でき、運用できる。

- 4 形容詞が述語になる文が理解でき、運用できる。
- 5 道の尋ね方、年月日、曜日、時刻の尋ね方の会話ができる。
- 6 簡単な会話の聞き取りができる。

[この授業の達成目標]

各文法事項を理解し運用できる。

[達成目標の評価方法と評価基準]

[この授業で習得する「知識・能力」] 1～6の習得の度合を中間試験、期末試験、口答試験により評価する。各項目の重みは同じである。試験問題のレベルは、100点法により60点以上の得点を取った場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。

[注意事項] 教科書付属のCDを繰り返し聞き、発音練習をすること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] ピンインを見て発音することができる。基本文型（形容詞述語文、動詞述語文「是」と所有の「有」の文）が理解できる。本教科の修得には中国語Ⅰの習得が必要である。

[自己学習]

授業で保証する学習時間と、予習・復習（中間試験、定期試験）に必要な標準的な学習時間の総計が、45時間に相当する学習内容である。

教科書：しゃべっていいとも中国語（朝日出版社）

参考書：授業時、随時紹介する。

[学業成績の評価方法および評価基準] 中間・期末の試験結果を80%、口答試験の結果を20%として、これらの平均値を最終評価とする。再試験は原則として行わない。

[単位修得要件] 与えられた課題、提出物を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。